



いし ばし 清 孝 石橋きよたか県議会レポート

発行／自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話043(227)7411

有害鳥獣
対策

イバシの新しい駆除方法を提案

東千葉
M/C

目標上回る救急搬送受入れ

千葉県議会の中堅として、県政界で影響力を増す東金市選出の石橋清孝(いしばし・きよたか)県議は、9月定例県議会の一般質問に登壇しました。石橋県議は、地域で深刻化する有害鳥獣対策で、イノシシを薬殺する新たな駆除方法を提案し、県も課題はあるものの、国に対し、薬剤を使用した科

学的防除など多様な手法の開発を要望していくとの前向きな答弁をしました。また石橋県議は、東千葉メデイカルセンター(MC)の厳しい経営状況に対し、県の二層の理解と支援を要望したほか、県事業へのドロシーの積極的な導入などを提言しました。石橋県議の主な質疑を特集しました。

石橋議員 千葉県はさまざまな手法で有害鳥獣対策を実施してきましたが、これらの対策にもかかわらず、有害鳥獣の数も増加しています。今行っている対策は、効果はあると思いますが、目標を達成できていないことも事実です。

有害鳥獣による農作物の被害額は、25年度の3億4500万円から28年度は、4億6500万円と1億円以上増加しています。また、対策費も25年度の6800万円から29年度の9億2500万円と5年間で約5億円も増加しています。

静岡県農林技術研究所で開発した二ホンジカを硝酸塩入りの餌で駆除する方法は、現在どのようになっているのか。

環境生活部長 静岡県では、平成25年度に硝酸塩を用いて二ホンジカを駆除する実証実験を行い、7頭を駆除したと聞いています。

この手法は、シカなど胃が複数ある反芻動物に対し作用するものですが、人間や他の生物への影響などの点で課題があると言われています。

このため、国では今月開催された会議の場で、この手法は、原則として禁止される「危険猟法」に該当すること。

ただし、管理された実験環境下では許可し得ること。

それ以外の場所では、各



一般質問で語りかける石橋県議

9月県議会一般質問に登壇

種課題について説明可能な科学的根拠を示すことができた場合にのみ、許可し得ること。

静岡県では、これを受け今後の対応を検討しているところと聞いています。

環境大臣許可で可能

石橋議員 現状では薬殺はできないことは承知していますが、環境大臣が許可を出せば可能とのこと。

石橋議員 現状では薬殺はできないことは承知していますが、環境大臣が許可を出せば可能とのこと。

イノシシの駆除に当たり、薬殺などの手法の開発について、国に要望すべきと思うがどうか。

環境生活部長 環境大臣の許可を得れば、例外的に可能となりますが、人間に害を及ぼす恐れがないことなどが要件となります。

そのため、現在までに認められた事例は限定的となつてきたことと聞いています。

経営は厳しい状況

石橋議員 東千葉メデイカルセンター(MC)は、千葉県の方針に沿って作られたものであり、県の目的だった県立病院の経営健全化には大いに役立っています。

また、救急医療や災害医療体制の確保に向けて、国の地域医療再生臨時特例交付金を活用して、約11億7千万円の財政支援も行っています。

保健医療担当部長 県では東千葉MCが自立して運営できるように、看護師の派遣

に、東千葉MCと設立団体で経営方針、経営計画などを策定する会議に必ず出席し、情報共有の上で、東千葉MCを育てていくよう要望します。

●県政と東金市に関するご相談・ご要望をお聞かせください。

石橋きよたか 県事務所

〒283-0005 東金市田間1-12-12
TEL.0475(52)1588 FAX.0475(52)1598

現状について、県はどのように認識しているのか。

保健医療担当部長 東千葉MCは、地域において救命救急センターとしての役割を担っており、救急搬送による受け入れはこれまでの目標値を上回っているところ。

一方、当初の計画と比べて、病棟の開棟の遅れ等により、患者数が大幅に見込みを下回ったことから、開院当初から資金不足が生じ、病院経営は非常に厳しい状況であると認識しています。

県は現在と同様に、東千葉MCと設立団体で経営方針、経営計画などを策定する会議に必ず出席し、情報共有の上で、東千葉MCを育てていくよう要望します。

県行政にドローン活用を提言



議場で発言を求める石橋県議

建設現場での活用

石橋議員 ドローンとは、無人航空機のうち、複数の羽を有するマルチヘリコプターの通称です。過日、私の地元、東金市にあるドローンの指定教習施設の一つ「エンルート・ドローンフィールド東金」を訪問し、施設の見学やドローンの将来性などを聞いてきました。

国や民間ではドローンを積極的に活用していますが、千葉県におけるドローンの活用は少ないように思えます。県土整備部におけるドローンの活用状況はどうか。

県土整備部長 現在、国土交通省では、建設現場の生産性向上を図るため、建設現場にドローンを活用しているの

国や民間ではドローンを積極的に活用していますが、千葉県におけるドローンの活用は少ないように思えます。県土整備部におけるドローンの活用状況はどうか。

農業分野でも期待

石橋議員 農林水産部ではドローンを活用しているのか。

農林水産部長 農業の労働力不足を補うとともに、農作業の効率化や高品質化を図るため、農業分野にお

入を支援するとともに、関係機関と連携して、ドローンを活用した水稻の生育調査に取り組み農家を支援しています。

消防学校でも導入

石橋議員 消防学校ではドローンを導入して、消防団に研修を行うと聞いています。災害発生時にドローンを活用することは有効ですが、民間での講習はかなり高額になります。そこでお願いしたいのは、消防学校の教官がドローンを教えられるようになるべきと思うがどうか。

消防団に研修を行うと聞いています。災害発生時にドローンを活用することは有効ですが、民間での講習はかなり高額になります。そこでお願いしたいのは、消防学校の教官がドローンを教えられるようになるべきと思うがどうか。

消防危機管理部長 県では、消防庁の資機材の無償貸与制度を活用し、今年度、県消防学校にドローンを配備することとしました。また、消防学校の職員及

今後は、農林総合研究センターで、ドローンで撮影した画像を用いて、水稻の適切な追肥の量や時期を推定する技術開発を検討するなど、農業分野における活用を推進してまいります。

要望 今後、県も積極的に活用していくとのことですが、世の中の流れに遅れないようにしてもらいたい。また、ドローン講習は2日で18万円かかるなど高額なので、県立農業大学校にドローンを購入し、教官が指導できるようにしていただきたい。

基本プラン作成へ

石橋議員 成田空港の更なる機能強化に関し、現在、さまざまな議論がなされており、まさに今後の成田空港の行く末を左右する大事な時期に差し掛かっていると思います。空港周辺地域全



空港周辺市町の地域づくり

ちばGAP制度で産地育成

石橋議員 GAPとは、Good(良) Agricultural(農業の) Practice(実践)の頭文字を取った略号です。千葉県では、東京オリンピックパラリンピックに農産物を提供することが可能な「ちばGAP」制度を作り、運用開始に向けてテストを行っているところです。そこで伺います。ちばGAPの取り組み状況はどうか。

農林水産部長 現在、来年2月から「ちばGAP」が円滑に始動できるよう、県内8地区のテスト産地で制度の試行を行っています。さらに県では、県内における均質な指導と一定の評価ができるよう、指導員の合同研修やマニュアルの作成を進めています。

今後は、テスト産地での試行結果を踏まえ、推進方針や点検項目等の精査や修正をした上で、農業者が取り組みやすい「ちばGAP」制度の構築を図ってまいります。

子育て環境の整備など、幅広い分野にわたっています。

市町の要望に対応を

石橋議員 県として、今後の空港周辺の地域づくりに関する市町の要望に、どのように対応していくのか。

森田知事 県では、空港周辺の地域振興に関する「基本プラン」の作成に向け、周辺9市町と個別に意見交換し、合わせて100件に上る意見や要望をいただいたところです。

その内容については、道路、河川、農業用水など「インフラ整備」をはじめ、企業誘致、観光振興、教育・

このため、県では周辺市町からの要望について、空港会社や国と連携を図りなが

石橋議員 指導者や確認者の育成はどのように行うのか。

農林水産部長 GAPの取り組みを拡大していくためには、GAPを分かりやすく的確にアドバイスする指導員や取り組み結果を適正に評価する確認者の育成が必要です。

このため、県は普及指導員等を対象にGAP指導員研修を実施し、平成28年度は20名を育成しました。

幅広い分野にわたっています。

ら、広域的な地域振興の視点を加え、「基本プラン」の検討を進めています。

要望 数点要望させていただきます。大幅に不足することが懸念される空港関連従業員の労働力確保のための住宅確保など積極的に対応していくこと。空港周辺の道路網を整備し、空港と地域間の交通性の向上を図り、通勤環境の改善を図ること。騒音対策により住民の移転が進むことによって、当該市町の活力が失われないよう知恵を絞ること。空港東側と南側に対し、企業立地に向けた計画的な物流施設、産業施設の誘致に向け主導すること。